

会派視察研修計画書

平成29年 6月30日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	鈴木 みのり・小池 友妃子	
日時	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）	
視察先	8月7日（月） 新潟県長岡市 8月8日（火） 富山県富山市 8月9日（水） 石川県金沢市	
研修内容	長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について 富岡市・・・お迎え型病児保育事業について 金沢市・・・小中一貫英語教育について	
日程	8月7日（月） 新潟県長岡市 13:30～16:30 8日（火） 富山県富山市 13:30～15:30 9日（水） 石川県金沢市 10:00～11:30	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 _____台 所有者名（ _____ ）

会派視察研修報告書

平成29年8月17日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員2名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木みのり・小池友妃子
日時	平成29年8月7日（月）～8月9日（水）
視察先	8月7日（月） 新潟県長岡市 8月8日（火） 富山県富山市 8月9日（水） 石川県金沢市
研修内容	長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について 富岡市・・・お迎え型病児保育事業について 金沢市・・・小中一貫英語教育について
日程	8月7日（月） 新潟県長岡市 13：30～16：30 8日（火） 富山県富山市 13：30～15：30 9日（水） 石川県金沢市 10：00～11：30
備考	

視察研修成果報告書

平成 29年 8月 17日

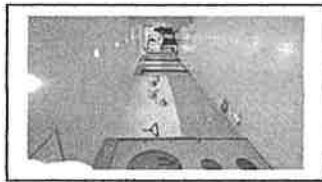
議員氏名 鈴木 みのり

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 29年 8月 7日（月）～平成 29年 8月 9日（水）
- 2 視察先 長岡市・富山市・金沢市
- 3 視察の種類 合同会派視察（市民クラブ・公明党・みらいクラブ）
- 4 視察の成果等

今回も定例となってきました3会派合同の視察に上記の日程で、台風5号接近の中、奇跡的に無事北陸3市に行ってきました。まず初日は新潟県・長岡市に中越大震災を活かした“アオーレ長岡防災システム”を中心に研修をしました。初めに驚かされたのは4年前に新庁舎を建設された際に庁舎内に右写真のように本格的な防災センターを作られ、全国的にも初めての事だそうで、羨ましく感じました。余談ですが、その下の写真は、全国初の1階に在る議場で、しかも一部ガラス張りと言うもので、長岡の歴史に、市民と一体と言う教えが活きずいているからだそうです。



2日目の富山市では、“お迎え型病児保育事業”について研修しました。共働きの世帯では、子供の急な体調不良の際、保育園にすぐ迎えに行く事が出来ないが、ここではかかりつけ医院に、保育士が搬送し、その後は園でお迎えまで預かるというもので、左の写真は更に一日7200円で3食つき、6連泊まで可能な、精神的に厳しい状態の時に利用できる施設であった。しかし交付金・補助金の多さには、納得いかない部分もあったが当市においてもこれ以上の進んだ子育て支援事業を目指し、頑張っていく決意を新たにしたところである。最後に3日目は金沢市の“小中一貫英語教育”を研修しました。冒頭の挨拶を英語でチャレンジしましたが、大変でした。全国でも英語教育の特区（Ⅲ 16年認定）は1つしか無く、精度の高いオリジナルの副読本を作られていましたが、これは地元の歴史・名所・人物が題材となっており、単に英語教材と言うものではなく、郷土愛も同時に学べるもので同僚議員も何名か購入されたので、是非皆さんにもご覧になっていただきたいものである。



会派視察研修報告書

平成28年 8月17日

議員氏名 小池 友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年 8月 7日（月）～平成29年 8月 9日（水）
- 2 視察先 新潟県長岡市、富山県富山市、石川県金沢市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

①新潟県長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について

長岡市は、平成16年に「7.13水害」、「中越大震災」で大きな被害を受け、日本一災害の強い都市（まち）をつくるために、市民・NPO・ボランティア・企業・議員・職員等の声をもとに「災害の検証」をまとめ、防災の専門家による「長岡市防災体制検討委員会」を設置し、平成18年2月に「新たな防災体制の整備に関する提言」を。これら「災害の検証」と「提言」をもとに平成18年4月には「長岡市防災体制強化の指針」を策定。

防災体制強化の指針「5つの柱」に基づく具体的な取り組みとして、

①地域防災計画の見直し②各種災害対策マニュアルの作成③市民向け防災パンフレットの作成④災害情報伝達体制の整備⑤避難所環境の整備⑥中越市民防災安全大学の開講

今回の視察で学び、碧南市でも取り入れていかななくてはと感じたこととして、「我が家が避難所、だから強く安全に」を基本哲学に市民に伝えていくこと。各地域での水害、震災、津波等具体的想定での防災訓練。行政では、市民が備蓄しにくいものを備蓄し、食料・飲料水の備蓄（アレルギー食等特別なものは一部備蓄）をせず、市民自身が家族の3日分、できれば7日分を備蓄。災害対策本部の強化（いざという時のために複数設置）。災害時要支援者向け災害情報メールの設置。避難所となる学校をいざという時に使いやすくするための整備。市民防災大学を開講し、地域の防災リーダーの育成に努めること。

中越大震災時に仮設住宅団地があった場所を「シビックコア地区」へ

長岡市消防本部・・・県内初の免震構造を採用。エネルギー供給設備等を3階に配置し、万一の水害に際しても、設備がダウンすることなく消防機能を維持できる。

ながおか市民防災センター・・・「子育ての駅」と「市民防災の拠点」機能が融合した全国初の施設。平常時は、子育ての駅、防災力向上拠点。災害時は、ボランティア等の活動拠点に。

長岡市民防災公園・・・市民の「やすらぎ・憩いの場」として利用できる3ヘクタールの広大なオープンスペース。災害時には「安全・安心を支える」防災拠点に。



②富山県富山市・・・お迎え型病児保育事業について

2016年10月より全国初「富山市お迎え型体調不良児保育事業」開始。これは、保育中に子どもが体調を崩し、保護者が迎えに行けない場合、専任の看護師と保育士がタクシーで迎えに行き、かかりつけ医で受診した後、保護者が迎えに来るまで、まちなか総合ケアセンター内の専用の病児保育室で保育看護するもの。富山市には病児保育が3種類（体調不良児対応型、病児・病後児保育、お迎え型）ある。お迎え型病児保育は、市内の体調不良対応型病児保育事業を実施していない保育所等に通っている満1歳以上の未就学児を対象としている。

制度を利用するには、利用料1回2000円と子どもを送迎するタクシー料金1/4が必要となる。

小学校跡地活用事業として開設された地域包括ケア拠点施設（「総曲輪レガートスクエア」赤ちゃんからお年寄りまで地域住民が安心して利用できる複合施設。）内にある。

碧南市には病後児保育はあるが、周知もなかなかできず、活用がうまくされていない。病児保育施設を作る際に同時にお迎え型病児保育事業も手掛けると、急に子供を迎えに行けない保護者は、会社との板挟みになる精神的ストレスからも解放され、仕事を持ちながらも安心して子育てできる環境が作れるのではと感じた。



③石川県金沢市・・・小中一貫英語教育の取組について

金沢市は、平成7年度に「金沢世界都市構想」を策定し、平成8年度より小学校での英語活動に取り組み、平成16年3月に「『世界都市金沢』小中一貫英語教育特区」に認定され、同年4月より、小中一貫英語教育を全市立小中学校開始。

ふるさと金沢を題材にした副読本を用いながら、小中学生に自分の考えや意見、ふるさと金沢などを表現するコミュニケーション能力の育成を小中一貫英語教育の目標とし、ふるさと金沢について発信できる英語力を身に付けることを目指している。

カリキュラム内容

小1・2年生・・・朝のST15分間週一で。年間10時間

CDやピクチャーカードを利用し（学級担任対応）

小3・6年生・・・朝のST15分間週一で。年間10時間+週一45分授業（年間35時間の「英語科」）

金沢市独自教材「Sounds Good」、デジタル教材

（STは学級担任、英語科授業はインストラクター対応）

中1-3年生・・・年間140時間

金沢市独自教材「This Is KANAZAWA」、デジタル教材（英語科教諭、ALT対応）

早期に英語教育を実施していることにより、子供たちの英語に対する苦手意識は少なくなり、楽しんで学ぼうという姿勢が出てきているという。また、あえて本来の英語の時間とは別に地域のことを題材とした英語での地域学習をすることによって、外国人や他市の人々を意識しての金沢の歴史や文化について理会を深めることもでき、地域に対する愛着もでてきているようであった。英検等も他市に比べ高い結果も出ている。

東京オリンピックでの合宿候補地としても手をあげる予定であり、また愛知県下3番目に外国人の移住の割合が高い碧南市。国際化社会に対応できる碧南市になるためにも子ども達への将来への投資として、こういった英語教育を取り入れることも必要ではないかと感じました。

